



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.41



“場づくり”というアプローチで デザインを積み重ねていく

株式会社アポロデザイン 代表取締役 植村 康子氏

クライアントとともに 課題解決をデザインする

パンフレットやウェブサイトを「デザインする」という一般的なデザイン事務所の枠を飛び出し、あるときは“まちの広報”、またあるときは“イベントの仕掛け人”として活動しているのが、福岡市中央区大手門にある株式会社アポロデザインです。その活動はビルのサイン制作やウェブサイトの制作など“いわゆる”デザインの仕事はもちろん、植栽の手配、温泉施設のリニューアル、行政のまちづくり計画や移住者促進施策など、多岐にわたります。またビジネスプランの相談を受けることもあり、その姿勢は「よろずデザイン」という感がありますが、根底には同社の掲げる

“場づくり”のデザインという想いがあります。

代表取締役の植村康子さんは「時間の流れとともに消費されていくデザインだけではなく、何かを積み重ねていけるようなデザインを仕事にしたい。情報を発信する“場所”、人が集まる“場所”をデザインしていく仕事に関わりたかったのです」と話します。もともと同社は建築と広告を手がける株式会社アポロ計画の広告部門で、マンションなど中古建築再生を行うリノベーション事業の拡大に伴い独立。今に至ります。

「ある自治体の移住促進計画のお手伝いをさせていただいた時は、そのまちに移住したいかどうかのヒアリングを実施するプランでしたが、“聞く”ので

はなく“体験”をする企画を提案。実際に3組の方がトライアルステイを実施することになりました。生の声を聞く機会となり、移住をどう促進していくかを考える良い“場”をつくれたと思います」と植村さん。デザインという枠を超え、クライアントと同じ視点でデザインを提案していく姿勢もアポロデザインの特徴のひとつ。移住体験は現在も試験的に続いているといいます。

人や企業とのつながりも “場づくり”で円滑に

アポロデザインは少数精鋭で各種プロジェクトを進めています。それを実現するのが、案件ごとのチーム制。同社を卒業した人材や、外部スタッフと協力

【プロフィール】

西南学院大学卒業後、福岡のデザイン事務所に就職。2000年には、建築と広告に関わるデザインを行うアポロ計画（2005年に株式会社化）の立ち上げに協力する。同社の広告事業部が独立し、2015年に株式会社アポロデザインへ。設立より代表取締役を務める。



1 大川TATEGUMIという「建具×デザイン」のイベントにも協力。職人の技術が詰まった作品に多くの来場者で賑わった

3 さまざまなプロジェクトで、クライアントや協力会社と交え議論を交わすのがアポロデザイン流。こうして新たな“場づくり”が進んでいく

2 「290KABAN (フクオカバン)」は職人の技とアポロデザインのデザインがコラボしたメイド・イン・福岡のバッグ。帆布製で長く使える

4 オフィスと並んで設けられたシェアスペース「ボニートミナ」にはシェアデスクのほか、短期間の利用が可能なデスクも準備

してさまざまな仕事にあたっています。

「スタッフを多く抱えすぎると、売上を得るためのデザインになってしまい、求められるデザインではなくなってしまいます。しかし会社運営とクリエイティブはデザイン会社にとって両輪。外部スタッフや協力会社とのつながりが、いまのアポロデザインの仕事を可能にしています」と植村さん。

その関係性のつくりかたも、“場づくり”のデザインに起因するもの。同社のミーティングスペースはオープンで、誰でも気軽に立ち寄れる場として機能しているほか、ビル内の企業間コミュニケーションも円滑。建築を手がけるアポロ計画との連携はもちろん、同じビルに入居する企画会社や映像制作会社とも交流を図り、新たな仕事を生む種をまいています。「会社自体がおもしろいことをできる“場”でなければ、おもしろいことは生み出せません。こうしたつながりが、新たな人脈や新たなアイデアを育てていくと思っています」。またスタッフの個人活動を応援するのもアポロデザイン流。仕事のかたわら音楽イベントを企画するスタッフがいたり、デザインのグループ展に参加する

メンバーがいたり、プライベートでの活動を推奨しています。

「クリエイティブな仕事なので、業務以外からの刺激も必要。個人の仕事にもメリハリが付き、残業も少なくなりました」と植村さんは話します。

デザインで世代を結ぶ架け橋に

アポロデザインはものづくりにおいても、新しい挑戦を続けています。例えば福岡土産として博多弁をテーマにしたクリアファイルなどを制作しているほか、福岡の帆布会社と協力してオリジナルバッグ「290KABAN (フクオカバン)」をプロデュース。市内の商業施設やオンラインショップで販売しています。植村さんは「デザインをするだけでなく、デザイナー自身がメーカーなどと協業し商品開発を行います。原価計算や製造工程の確認から販売に至るまで携われることも、当社のセールスポイント。デザイナーの視点から消費者に手に取ってもらえる商品を提供できます」といいます。そうしたものづくりも、新しい販売の“場づくり”として広がりを見せます。

また人が集まる“場づくり”では、フロア内にシェアスペースをオープン。すでに20～30代のクリエイターが入居しています。「いまのクリエイティブ業界では、最初からフリーランスで仕事を始める人も増えてきました。そういう人たちにシェアスペースを活用してもらい、異業種やほかの世代の人たちとつながっていく場にしてほしい」と植村さん。アポロデザインは「デザインが行き届いていない場所、広報ができていない場所など、たくさんの人たちのお手伝いがしたい」と、新たな“場づくり”を目論んでいます。



株式会社アポロデザイン

〒810-0074 福岡市中央区大手門3-12-12
BLDG64 3F
TEL 092-753-7537
<http://www.apollo-d.com>